

# アンゴラセーターをダメにしないで！

「本当に洗ってるんですか？」

先日来店された新規のお客様の第一声でした。どういことでしょうか？と話を聞くと、「あるクリーニング店でアンゴラセーターを出したところ、気にしていた汚れが落ちずすっかり風合いが変わってしまった。がっかりでいろいろ調べたら『洗わないで、何とかスプレーするだけで終わり』、というクリーニングがあるという情報を得た。今日はネットで調べて来たんだけどおたくは本当に洗ってくれるんでしょうね」という意味なんです。

別のお客様は「某有名クリーニングに礼服を出した。半年して着ようとしたら虫食いが！しっかり汚れを落としてくれているのだろうか？」

最近こんな落胆の言葉をあげながら来店されるお客様が増えています。30年前と比べたら店舗の数は格段が増えて便利になりました。また、ファストファッションなど手軽に洗える洋服も増えてきた。ただ、時代が変わっても大事な服を大事に着て楽しみたいという人はいるわけで、そんな方々のために「本当に正しく洗う」店は必要なのではないかとあらためて痛感しています。特に冬場はウールを着る機会が多いわけで、.....。

# 柳屋で洗うウールがパサつかないのはなぜ？



ウール脂質を失わない  
ドライ管理が大事！

スクワラン入り加脂剤で洗う詳しいウール情報は別紙をご覧ください！

「クリーニングに出すとウールの油が取れちゃうんじゃないの？だからあまりクリーニングしない方がいいのでは？」という声を時々耳にします。たしかに動物の毛には脂質がありそれがぬめり感や光沢、撥水性も維持してる。ドライでも水洗いでもそれが多少なりとも取れるのは事実でしょう。人間も髪の毛をシャンプーで洗ったままだとパサつきますよね。だから、ウールもその後のケアが必要なんです。

そこで柳屋ではドライクリーニングの溶剤にはウールの脂質を補給する「スクワラン入り加脂剤」を含ませています。スクワランは深海鮫やオリーブの脂質を抽出したもので化粧品や薬品、皮革を柔らかくするクリームに混ぜたりするときにも使われています。人間の髪も洗った後のトリートメントが必要なように、柳屋のドライクリーニングもしっかり脂質を補っています。だから、やわらかさ、ふんわり感、ぬめり感、光沢が失われないのです。

アンゴラ、カシミアはウールの高級繊維。特にこの加脂剤のトリートメントが必要で素材別コースやデラックスコースで一般衣類とは別のソフト洗いをしています。

# 冬休み、学生服のお急ぎできますよ！



血液のシミ。まずシミ抜きしてドライクリーニング。

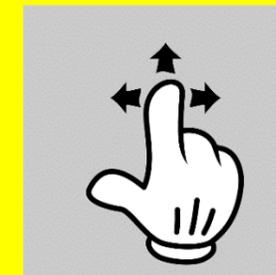


リボンの白線も復活しました～！

部活動などでなかなか洗えない学生服。でもお急ぎクリーニングなら大丈夫。最短1日も承りますので冬休みにぜひ洗って下さいね

# マスター前田

# 今月のゴッドハンド



ビフォー



正絹の袷せ着物。子供さんがよだれを付けてしまったというご相談。

和服の丸洗い。  
お正月、成人式の準備大丈夫？



年末年始は混みます  
なのでお早めに  
お出し下さい！



アフター

和服用しみ抜き剤できれいに落ちました。

丸洗い料金。  
着物(袷せ) 5600円～  
絹長襦袢 3360円～

# エコバッグ ご購入のお願い

エコバッグ  
1枚 200円



最近プラスチックゴミの問題からか、スーパーでレジ袋が有料化されたり、あのユニクロも来年からプラスチック袋から有料紙袋へ切り替えていくようです。このプラスチック、もともと石油からできていてゴミとして燃やせば地球温暖化の原因、温室効果ガスを最も放出する素材。ここ数年の暑さだけ考えてもう人ごとでは無くなってきました。そして、海に流れれば魚の生息にも甚大な悪影響があるという報道を見て驚きです。この間までは環境問題など遠い話とと思っていましたが、できることはしなくちゃいかな～と思うようになってきました。さて、クリーニング業界を見回すとまさにプラスチックやビニールだらけ。「家に帰ったらはずして下さいね～」とうるさく言われる透明のビニール。そしてハンガーに持ち帰りのためのビニール袋。まあ昔からうすうす感じてはいましたが完全に「過重包装」ですね。かといってユニクロのように「紙袋」をすぐ用意できるかというところもいけません。そこで、柳屋クリーニングでは2020年から「持ち帰りビニール袋の有料化」を実施する予定。その代わりに長く使える「エコバッグ」をこの秋から販売します。できるだけプラスチックゴミを減らす。その第一歩としてできることから始めるつもりです。環境といえば、柳屋クリーニングが「石けん」にこだわるのも「環境」を守る意味もあるんですよ。合成洗剤はプラスチックと同様石油からできてるんです。それに対し「石けん」は植物や動物の自然原料。だから川や海へながれても自然を壊さない「生分解性」がある。だから、柳屋もそこにこだわって自然の材料を使っているんです。ちりも積もれば山となる。でもこう毎年暑くなってくると、ひとりひとりの行動が「ちり」なんて言えなくなってきましたね。